令和6年4月　守口市教育センター

もっとOOしたい粘り強さと　りんきおうへんに調整する「主体的な学び」　ぐるぐる考え追究「深い学び」　ちがいを認め合って対話「協働的な学び」

守口市がめざす「授業」「学び」の姿

教育理念『郷土を誇りに思い、夢と志をもって、国際社会で主体的に行動する人の育成』

学校の取組み

すべての児童生徒の確かな学びを保障するために、**組織的な研究体制**のもと行う**一人一人の子どもが主体的、対話的で深い学び**の実現をめざす**「授業改善の推進」**・**「自立した学習者の育成」**を２本柱とし、そこへ 学校教育の基盤的なツールである**ICT（クラウド）**を適切に組み合わせながら**９年間を見通した**取組みを推進していきます！

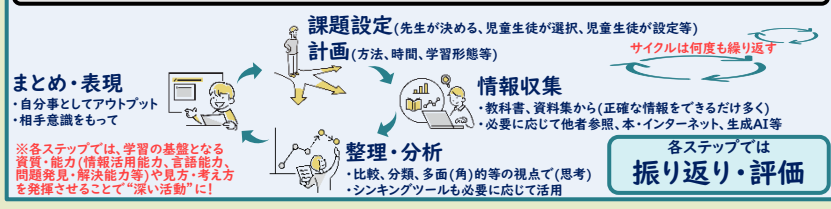
授業改善の推進

主体的、対話的で深い学びの実現をめざす

授業UD3つの視点で授業づくり(先生の役割)

- **焦点化**（シンプル）：□単元でつけたい力から逆算して、単元をデザインし、授業のねらいを絞ったり、質の高い課題を構想したりします。（ねらいに直結したしかけで、児童生徒のやってみ「たい」を引き出します。）
- **視覚化**（ビジュアル）：□効果的に見える化を図ることで、考え「たい」を引き出します。（ただイラストを見せるなどだけでは意味がなく、視覚的な手立てが、授業のねらいにつながるように心がけることが大事です。）
- **共有化**（シェア）：□児童・生徒の考えを共有し、同じ考えを深めたり、違う考えに出会い学びを広げたりするような場面をつくります。（あたたかな学級の雰囲気の醸成や話し合う力の育成も重要です。）

探究の学習過程（児童生徒自身がサイクルを回せるように、学び方や見方・考え方等は何度も指導・支援(引き出す)）



授業の学びを家庭学習へ活かす・課題提示の工夫

□ICT機器とクラウド環境を効果的に活用します。
☆ICT（クラウド）は学校教育の基盤的なツールとして必要不可欠

□児童生徒が自己を調整しながら学べるよう、学ぶ内容・方法等を自己選択・自己決定できる活動を設定します。

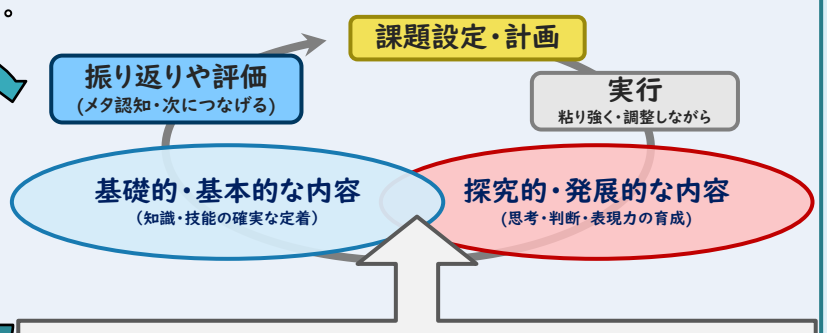
評価(見とり)・授業への活用

自立した学習者の育成

自己調整しながら主体的に学びに向かう力※を伸ばす

※自ら学習課題を見出し、見通しを持って粘り強く取組み、学習活動をふり返って次につなげて学習する力

自己学習のサイクル



□基礎基本の定着(習得・活用)と探究的・発展的な内容や量のバランス、時間のめやすの設定、 自主学習や一人一台端末の活用、点検・評価の方法等、家庭学習について、 学校全体や学年、教科間で共通理解を図ります。(発達段階に応じて、児童生徒が自ら選択・自己決定できるように指導・支援)

授業改善の推進

❶自ら学びに向かう子どもの育成（課題・流れの明示、選択・決定の機会設定等）

❷すべての子どもたちにとって「わかる・できる・探究する」ことをめざす授業づくり（授業のユニバーサルデザイン、探究の学習過程）

❸ICT（端末＋クラウド）の活用を前提とした授業づくり

❹情報モラル※教育の充実（※学習の基盤となる資質・能力「情報活用能力」に含まれる）

自立した学習者の育成

❶家庭学習習慣の定着（見通し・計画・実行・振り返り・次につなげる）

❷読書習慣の定着（インプット⇆アウトプット）

児童生徒へ委ねる時間(選択・決定)で「自己調整力」が育つ⇒自立した学習者へ
（学びに向かう力の育成）

学習の基盤となる資質能力：情報活用能力、言語能力、問題発見・解決能力等

２本柱の充実を支えるため、リアルな学びを支えるために
ＩＣＴ（クラウド）を効果的に活用します

授業での活用

➡一人一台タブレット端末等のICT機器とクラウド環境を効果的に活用した授業デザイン
➡学習履歴等を蓄積し分析を踏まえた、授業へのフィードバック
➡クラウドや協働学習支援ツールを活用した、多様な考え方を共有しながら進める課題解決学習の推進
➡デジタル教科書等のデジタル教材の活用　等

家庭学習での活用

➡AIドリルや動画コンテンツ、オンライン授業等を活用した学習
➡読み上げ機能等のデジタル教材を活用した、個別最適で主体的な学習
➡クラウドや協働学習支援ツールを活用した、個別最適で非同期による協働的な学びの一体的な充実

教育データの利活用

➡一人一台タブレット端末を活用したアンケート状況や学習状況等、きめ細やかな状況把握　等
➡「学習につまずきのある子ども」や「非認知能力※」等も切り口にした把握・分析の組織的な実施と教育活動へのフィードバック

※テストでは測ることができない力のことで、粘り強く課題に挑戦する力(弱気な力・自己抑制・目標への情熱)、気持ちをコントロールする力(自尊心・楽観性・自信)、人と協調して取り組む力(社交性・敬意・思いやり)などがある。

校務∞研修∞授業　　全て『相似形』！※基本構造は同じ！

毎日の校務で全教職員が授業と同じようにICT（クラウド）を使うことで活用に慣れ、大人がクラウドの便利さを体感し、うまく活用。そのような大人の姿はまさしく授業中の子どもたちの学びの姿と相似形。

バランス感覚を持って積極的に活用！

＼「二項対立」の陥弄（かんせい）に陥らない／

どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく

- 一斉授業 or 個別学習
- デジタル or アナログ
- 履修主義 or 修得主義
- 遠隔・オンライン or 対面・オフライン

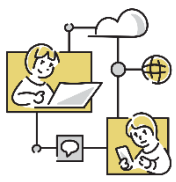
＼更なる充実に向け…／

交流・まとめ場面でのクラウド型活用で学びの可視化、子ども一人一人の支援にも！

・プレゼン資料　・レポート　・リーフレット　・新聞　・動画　・アニメーション　の作成等
⇒上記をクラウド上で行う（白紙共有・途中参照・他者参照により途中段階が共有できる）

子どもが見通しを持って、学ぶ方法を選択する場面設定の工夫を！

・学習の見通しを持たせるため、単元や授業の課題や流れ等を事前にクラウド上で児童生徒と共有
・単元や授業内容に応じて、児童生徒がICTも含めて方法を選択できるような学習環境の設定
（課題は同じだが、方法は一人一人違う）



日常使いに向けては、校務・研修でのDX化を図る！授業のあり方も変わる！

・校内の実践事例や情報等はチャットで共有
・授業研究会ではデジタルふせんツールを使って討議内容を瞬時に共有、蓄積
・学習指導案は共同編集で作成し、意見の集約も一元化

「R6～7年度めざす守口の教育（基本方針2）」より一部抜粋・追記（R6.4.1時点）